

令和 8 年 6 月 2 2 日

議会報告・意見交換会報告書

天童市議会議長 様

代表者 三宅 和広
記録員 滝口 茂之
班 員 村山 俊雄
班 員 新関 知己

議会報告・意見交換会を開催したので、その概要を下記のとおり、報告します。

記

1 日 時	令和 8 年 5 月 2 4 日（日）午前 1 0 時～午前 1 2 時	
2 会 場	天童市総合福祉センター	
3 意見交換のテーマ	地域活性化について	
4 意見交換の内容 (議会・議員及び市政 に対する意見、提言、 要望等)	参加者の意見等	取扱
	1 地域公共交通（デマンド型交通）の利便性と課題 ・ 山形交通のバス路線が減少し、自家用車を運転できなくなった高齢者の移動手段が限られている。 ・ 市が運行するデマンド型交通（DOMOSU）について、利便性向上（予約制の変更等）が図られたものの、利用者はまだ少ない。 ・ 「予約の電話を入れること自体に心理的抵抗がある」「自宅前ではなくバス停まで歩くのが大変」といった声がある。 ・ DOMOSU 到着時のアナウンスなど、乗車時に周囲の目を恥ずかしいと感じる心理や、効率性を重視するあまり乗車時間が直前まで確定しにくい点もネックになっている。 ・ まずは地域で「一度試しに乗ってみる（体験会）」などの取り組みが必要ではないか。	① ① ① ①② ①②

※取扱区分 ①要望・意見として伺うもの
②執行部に伝えるもの
③執行部からの回答を要するもの

	2 新興住宅地（芳賀タウン等）における地域コミュニティの希薄化と公民館運営問題 ・高嶺地区全体の人口や子どもの数は維持されているものの、実情は新興住宅地（芳賀タウン）が 7 割を占め、在来地区は 3 割程度と構成が逆転している。 ・新興住宅地側には町内会や自主防災組織、子ども会が存在しない、あるいは機能していない。こうした事態に行政してどう対応するのか。これまで町内会が担ってきた仕事をすべて市でやるのか。 ・役員の担い手不足により、在来地区側だけで交通安全や防犯の負担（負担金や見回り）を負っている不公平感がある。 ・若い世代が「面倒な地域付き合いを避けたい」とあえて新興地を選んで流入してくる傾向があり、地域への愛着や帰属意識が育ちにくい。 ・現状、ゴミステーションの管理（掃除の当番制）等はかろうじて回っているが、住民が高齢化した将来、一気に破綻する危機感がある。 ・開発時に土地区画整理組合等によって公民館は建てられたものの、機能しておらず（電気も通っていない等）、「仏作って魂入れず」の状態になっているところもある。 3 周辺集落の持続可能性と地域の魅力づくり ・地域の個人商店や商店街はコンビニエンスストアに代替され、そのコンビニすら 24 時間営業の見直しなどで先行きが不透明であり、買い物弱者対策が急務である。 ・寺津地区などにおいては、歴史的な資産や過去に整備された公園があるものの、それを活かした地域の魅力づくりや活性化に繋がっていない。 ・「自分たちの地域は自分たちで良くしていく」という意識を持つ若い人材・リーダー層が圧倒的に不足している。 ・農業（田畑）の担い手不足も深刻で、現世代が引退した後の土地の管理に強い不安がある。	① ①② ①② ① ① ①② ① ①② ①② ①② ①
--	--	--

※取扱区分 ①要望・意見として伺うもの
 ②執行部に伝えるもの
 ③執行部からの回答を要するもの